

KEYWORD スペクトラム により表現される 6つのコース



修士課程の入試は年3回(夏季、冬季、個別)行われます。
また、博士後期課程の編入学も可能です。
詳細はホームページをご参照ください。

<https://isgs.kyushu-u.ac.jp>

交通案内



伊都キャンパスへの公共交通機関

【福岡空港から】

地下鉄+JR+昭和バス:
福岡空港駅(地下鉄空港線,約25分)一姪浜駅で乗り換え(直通列車の場合乗り換え不要)一(JR筑肥線,約8分)一九州研都市駅一(昭和バス,約15分)一九大イーストゾーンバス停

【博多駅から】

地下鉄+JR+昭和バス:
博多駅(地下鉄空港線,約19分)一姪浜駅で乗り換え(直通列車の場合乗り換え不要)一(JR筑肥線,約8分)一九州研都市駅一(昭和バス,約15分)一九大イーストゾーンバス停

西鉄バス:

博多駅前(A)バス停一(西鉄バス)九大伊都キャンパス行,約58分)一九大ビッグオレンジ前バス停

【天神から】

地下鉄+JR+昭和バス:
天神駅(地下鉄空港線,約13分)一姪浜駅で乗り換え(直通列車の場合乗り換え不要)一(JR筑肥線,約8分)一九州研都市駅一(昭和バス,約15分)一九大イーストゾーンバス停

西鉄バス:

天神ソラリアステージ前(2B)バス停一(西鉄バス)九大伊都キャンパス行,約45分)一九大ビッグオレンジ前バス停

問い合わせ先

九州大学大学院人文社会科学系事務部
教務課 地球社会統合科学府担当

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 番地

T E L. 092-802-6372

F A X. 092-802-6396

E-mail. jbkkyomu3@jimu.kyushu-u.ac.jp

ホームページ

大学院地球社会統合科学府

<https://isgs.kyushu-u.ac.jp>



九州大学大学院 地球社会統合科学府



Graduate School of
Integrated Sciences for Global Society
Kyushu University



大地と、その上に生きる生物と、
人びとのいとなみを探究し、
現代世界の課題にこたえる
地球社会的視野に立つ統合的な学際性



地球社会統合科学府へようこそ

地球社会統合科学府は、20年間の学際的教育・研究に実績を持つ比較社会文化学府を母体として平成26年に発足しました。自然科学、人文科学、社会科学の専門性を考究する一方で、現場主義の精神に基づき世界各地でフィールドワークを展開し、人類と生物をとりまく「地球社会」の諸問題を文理の枠を超えた「統合的な学際性」に立脚して究明するとともに、これまでにない新たな解決方法を提案して世界と地域をリードする人材を養成することを目指します。

<主な研究分野>

地質学、岩石学、鉱物学、地球化学、地球物理学、地形学、生物多様性科学、昆虫学、分子進化学、生態人類学、地理学、国際関係論、政治理論、科学技術史、経済史、経営史、社会学、文化人類学、形質人類学、日本近代文学、中国文学、コミュニケーション学、言語学、日本語教育、考古学、日本史、日本研究、西欧思想、アジア地域研究など。

多彩な6コース編成

地球社会統合科学府は、6つのコースから編成されています。「KEYWORDのスペクトラム」に表現された、地球社会に関するゆるやかに繋がる研究領域を6つのコースに編成し、それぞれに対応する科目を設けています。学生の皆さんは、これらのうちからコースを選択して、専門を学んでいくことができます。

包括的地球科学:

地球史的観点から、大気圏～核までのダイナミズムを探究し、環境変動・自然災害・資源探査の問題に取り組む。

包括的生物環境科学:

生命と環境が直面する様々な課題の解決に挑み、生物多様性のなりたちを理解し、地球環境の保全に努める。

国際協調・安全構築:

地球社会における不均等な配分や科学技術のリスクなどの問題に対し、国際協調と安全のための未来構想を提案する。

社会的多様性共存:

性差、人種、文化、宗教、経済の様態という観点から、異なる集団間の互恵的共存のために必要な施策を探究し、提案する。

言語・メディア・コミュニケーション:

地球社会の相互理解という観点から、人類のコミュニケーションの仕組みを解明する。

包括的東アジア・日本研究:

歴史・社会・文化・環境等の観点から、東アジアの過去と現在を統合的に究明し、人類社会の未来像を構想する。

トピックスと特徴的研究

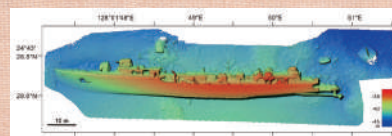
1 最先端の浅海底学際研究

本学府では、最先端のマルチビーム測深機を用いて、今まで高解像度の地図がなかった浅海底の地形図を作成しています。一連の研究の中で、沖縄島沖の第二次世界大戦末期の重要な海戦跡を、世界で初めての方法で詳細に可視化することに成功しました。これまで多くの戦争体験者が自らの体験を語ってきましたが、今後は残された遺物によって戦争を記録し伝えることが重要になるでしょう。最先端の学際研究を基にしたこの研究成果は、今後の平和教育のための重要なメッセージを世界に発信しています。



Photograph © HIRONOBU KAN

1945年に日本軍特攻機の攻撃によって航行不能となり、沖縄島沖の水深40mに沈んだ全長106mの軍艦エモンズ(USS Emmons)



衛星測位システムが利用できない水中にて、多視点ステレオ写真測量にマルチビーム音響測深から得られた位置情報を与える新たな方法を提示し、水深40mの海底で120m×30mの広い範囲について、5cmグリッドのきわめて詳細な海底地形図(下図)および三次元モデルを作成しました。

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/1095-9270.12301>

3 ビックデータを使った言語研究

大量の言語データを集めて分析をすることで、言葉のさまざまな側面が浮かび上がってきます。本学府では、多様なジャンルの言語データを蓄積し、学際的な研究が進められています。

CVLA: CEFR-based Vocabulary Level Analyzer (ver. 1.1)

Legend: A1 example, A2 example, B1 example, B2 example, C1 example, C2 example. # indicates number of words. # indicates number of words. # indicates number of words. # indicates number of words.

There are several types of dictionaries which explain and how they are used. Dictionaries which translate words from one language to another, dictionaries which list about famous people, technical dictionaries which explain the meanings of technical words or words connected to a particular subject, dictionaries called a thesaurus, some of these are used to bring an example of a word, a list of extra information about things or knowledge, and does not explain the use of the language. An example of a dictionary which is less information about the topic. Then a real encyclopedia does not more than a simple dictionary.

英語教科書コーパスの統計値から作成された英文のレベル推定システム

Module B	CEFR	A1	A2	B1	B2	C1	C2
A1	5.75	1.48	1.31	0.28			
A2	0.89	1.82	1.41	0.12			
B1	0.80	2.87	1.87	0.18			
B2	12.84	2.88	1.71	0.28			
Input	21.24	5.55	1.86	0.23			
Estimated Test Level	C2	C2	B1.1	B1.1			

本学府では、学際統合的教育・研究を進める一方で、個々の専門分野でも特色ある研究を実施し、特筆すべき発見と成果を提示してきました。ここでは、その一部を紹介します。

2 水環境の統合学際研究

水は人間や生き物にとって必要不可欠な資源であると同時に、文化や生業、経済や社会制度などとも深い関わりがあります。気候環境や社会経済状況が変化するなかで、将来的な水の管理方法や関わり方を模索することは、社会的な課題でもあります。本学府では、地球科学や生物学、地理学や歴史学、政治学や社会学など、幅広い切り口から水に関わる事象や課題を総合的に考えていくプロジェクトを実施しています。



九州北部豪雨災害の被災地。防災や減災の課題は、河川の治水という点だけでなく、山林の管理や避難経路の確保など、地域の自然環境や社会の様々な側面に関わる。

雨季に洪水がやってきたナミビアの農村。適度な洪水は住民にとって恵みの水となる。右はドローンによる空撮写真。



4 公衆衛生を歴史から考える (D1 北田瑞希)

デング熱、エボラ出血熱、SARS、新型コロナウイルス肺炎など、感染症は科学や医学が発展した現代においても人々を恐怖に晒しています。私は、感染症をどのようにコントロールするのかという私たちにとても非常に重要な課題を歴史という観点から明らかにするための研究を行なっています。



2019年
カンボジア調査